

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	
記入者名 (管理者)	
記入日	平成 年 月 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・三つの理念の中の一つとして、「地域の皆様とのふれ合いを通して、社会的交流を大切にします。」、もう一つとして、「ぬくもりのある家庭的な雰囲気を作り、その人らしい生き方を尊重します」の二点があげられている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・いつでも職員の目にとまる場所に、三つの理念を貼りだしている。理念の実践に向けて、日々努力している。</p>	<p>・月1回の職員会議の中で、朗読して、理念の共有に努めたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>・家族や地域の人たちとのかかわりは、大切にしている。ただ、具体的な行動として、理念を意識しながら、家族や地域の人々に理解してもらえよう、取り組んではいない。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・頻繁にというわけには、いってませんが、除々に挨拶や声掛けはできてきているように思う。定期的な踊りやお話相手、介護補助のボランティア、高校生が学校帰りによってくれたり等、地域の方たちとのふれあいや交流は、少しずつできてきている。また、ご近所の方が、季節の野菜なども届けて、下さったりしている。</p>	<p>・地域主催の行事への参加や事業所の催し物への参加等、お互いのふれあい、交流が深まるような機会を、多く持っていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・現時点では、ほとんどできていません。地域の有志主催の七夕コンサートに参加している。</p> <p>・地域主催の行事やお祭りに参加している。</p>	<p>・まだまだ、地域に溶け込んで、地域の一員になっていない状況ではない。こちらから呼びかけたり、呼びかけていただいたりして、交流に努めていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>・現時点は、実施できていない。</p>		<p>・まずは、職員一人ひとりが、地域に目を向け、地域の高齢者の暮らしに目を向けるような、機会をつくることから、始めたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>・事業所全体として、自己評価、外部評価は初めてであり、的確にその意義を捉えているとはいえない。</p>		<p>・まずは、今回の評価をもとに、自己点検し、運営者、管理者、職員全体で話し合いを持ちたい。その中で、継続すべき長所、改善すべき箇所、新たに取り組むべき点について、検討したい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・現時点では、利用者の状況やサービスの実際を報告するに留まっている。運営推進会議で意見を内容については、職員会議にて報告している。サービス向上にまでは、活かしてきれていない。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・現時点では、意識的に市との繋がりを意識するような機会は、作っていません。必要に応じて、相談、連絡を取っている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>・職員全体で、学ぶ機会は、もっていない。実際に、利用者1名が、成年後見制度を利用されている。</p>		<p>・職員全体で、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持っていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・具体的、意識的に虐待防止の取り組みは、行っていない。</p>		<p>・職員全体で、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持つ。その上で、日常の事業所内での、自分たちの業務について点検する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・十分とは言えませんが、契約の際には、説明を行っています。解約については、まだ経験ありません。</p>	<p>・利用者や家族の不安や疑問点に十分な説明ができ、納得して契約していただけるようにしていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・改まった形での機会は、設けていない。日常の現場にて直接利用者から、不満や要望を聞いている。利用者からの意見、不満、苦情、要望は、内容により運営会議や職員会議にて、報告、検討している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>・現時点では、定期的、意識的に個々に合わせた報告は、していない。ご家族が面会にいらした時や連絡の必要性がある時には、ご本人に関することは、報告している。職員の移動については、報告していないが、施設内に掲示している。</p>	<p>・金銭管理については、定期的な報告を検討したい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・外部者への訴えについては、契約時におわたししてある、重要事項説明書に行政機関その他の苦情受付機関の連絡先を明記してある。また、施設玄関の連絡ボードに、福祉サービスの苦情相談のご案内を貼ってある。管理者や職員に対しては、訪問時に直接言っただけである。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・定期的に職員との面談の場を設けていく予定。現在のところ1回実施している。</p>	<p>・今後も定期的に職員と運営者や管理者との面談を設ける予定である。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・勤務調整については、日々の業務内容や行事、利用者の受診等に対応しながら、臨機応変に調整している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・異動については、半年をめどに検討している。特に問題が見られない時は、行っていない。毎月の運営会議にて、利用者及び職員の状況を出し合い、施設内の人間関係について、常に状態の把握に努めている。離職者が出た場合でも、直接利用者には伝えず、別のユニットに異動になりました等と伝えている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・育成するための計画は、今のところ立てていないが、法人内外の研修には、職員に紹介したり、業務命令として研修に参加させている。		・今後も引き続き、研修委員会を中心に、法人内外の研修に積極的に参加していきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・新潟県認知症高齢者グループホーム協議会に参加している。近隣の同業者との交流や、ネットワークづくりの話は出ているが、実施はされていない。他施設の講師を招いての講演会は、実施している。		・同業、他施設との交流、勉強会、相互訪問を実施できるようにしていきたい。講師を招いての講演会、研修会は、継続していきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・入居者の容態の変化や重度化等により、職員の介護負担軽減のため、適宜、パート職員の雇用、ボランティアの受け入れを実施している。他に夜間職員の増員を行っている。また、研修の拡充を図っている。		・上越勤労者福祉サービスセンターへの入会を検討中。 ・目安箱(提案、不満等)の設置を検討している。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・不定期ではあるが、管理者、副管理者との交流、面談にて、施設全体の状況、職員個々の勤務状況を把握している。職員とは、半年に1回の面談を行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初めに築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・土、日を除く平日ボランティアの方に来ていただいて、各利用者さんのお話し相手に多くの時間をさいている。そこで聞いた意見や要望、苦情等を、職員に伝えてもらい、業務にいかしている。職員も、極力利用者さんと触れ合う時間を、持つよう心掛けている。日々の打ち合わせや職員会議時に、利用者の状況把握と検討に時間をとっている。		
24	初めに築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	全家族とまではいかないが、面会時や電話でなるべく時間を取り、ご家族のお話を聞き、要望や意見、困っていることを把握するよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・新規開設だったため、ご家族や担当のケアマネージャーの意向が強くなってしまった。その結果グループホームの対象としては、適さない状態の利用者も入居されている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・サービス開始前には、特に工夫した取り組みは、実施していない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員個々の意識としては、バラつきがある。職員全員が、利用者本人から学んだり、支え合う関係を築いているとは、言えない。		・職員集団全体として、家族と一緒に本人を支えていく関係であると、意識できる、話し合いや取り組みを行っていききたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・職員個々の意識に多少の違いはあると思うが、家族とともに本人を支えていこうとしている。例えば、通院についても、職員と家族が交互に行っているケースがある。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・本人の基本情報を職員で共有し、よりほんにんや家族について、理解を深めた上で、関係づくりに努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・個々人の状態により、今までの馴染みの人や場所との関係を継続できている方、家族との関係だけの方、まったく関係が、途切れている方と分かれている。		本人の状態により、今までの関係を継続したい方、継続できる方には、連絡を取り合う等の関係づくりは、支援していく。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係については、日々注意を払っている。職員全体で状況を把握し、職員会議やミーティングで問題点や検討を要する点について取り出し、日常の現場で適切な対応が取れるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・現段階では、対象となる事例は、ありません。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々のミーティングやカンファレンス、職員会議等で、必ず利用者一人ひとりの状況を把握、検討し、本人の意向の把握に努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人の基本情報を職員で共有し、より本人や家族について、理解を深め関係づくりに努めている。基本情報や認定情報、家族との会話で得た情報により、本人のこれまでの暮らし方や生活歴、性格、趣味等をつかんでいる。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の打ち合わせやミーティングやカンファレンス、職員会議等で、一人ひとりの状況を出し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人、家族との話し合いも十分とは、言えない。職員間でのアセスメント、カンファレンスから介護計画への流れの理解が、まだまだ機能していない。現段階では、本人本位の介護計画になっているとは、言えない。		・アセスメントやカンファレンスの内容が生かされ、本人本位の介護計画にもとずいた実践が行えるようにしていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画の有効期間に応じた見直しは、行っている。急な対応については、必要関係者との話し合いは、行っているが、新たな計画作成は、できていない。		・本人の健康状態や生活機能の著しい変化等があった場合には、現状に即した新たな計画を作成、実施できるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別介護記録への記入をし、情報を共有しながら、実践することは、できている。介護計画の見直しには、十分生かされているとは、言えない。		日々の個別介護記録での情報を、職員で共有し、介護計画に生かせるようにしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・例えば、急に通院介助ができなくなった家族の代わりに、職員が対応することがある。本人が買ってきてほしいものや、修理してほしいものなどを職員が行うこともある。家族の状況を考慮しながら、対応策を考えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・まだまだ、様々の機関等と協力しあって、本人を支援した経験がない。ボランティアは、定着しつつある。		・地域の様々の機関等との協力関係を、少しずつ広げたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・必要に応じて、地域のたのケアマネジャーとは、話し合いをもっている。意識的や定期的な話し合いは、持っていない。サービス事業所は、福祉用具、オムツ配布関係の事業所と医療機関を利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・本人が居住されていた地域の包括支援センターと連絡を取りながら、成年後見制度の利用を支援している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医2か所より月1～2回の往診を受けている。その際、往診前に、利用者の容態を事前にかかりつけ医に知らせている。緊急の際は、直接、受診している。かかりつけ医を別に持っている利用者については、定期的に受診している。		今後も引き続き月1～2回の往診を継続していきたい。入居者容態連絡表も、引き続き継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・専門医との関係は、築けていない。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・看護師4名交替制で、毎日利用者の健康管理にあつたてている。 救急時には、かけつける体制を整えている。		・慢性疾患を持っておられる利用者も多く、今後も引き続き、毎日看護師がいる体制を継続していきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院時、入院して数日後、退院時と連絡をとるようにしている。 早期退院を、特に意識した協働は、とっていない。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・現時点では、重度化した場合や終末期のあり方について、事業所として、話し合いや対策、準備は、していない。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・検討しなければと思いながら、具体的な話し合いや準備は、行っていない。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・現時点では、住み替えられた方や、住み替えを予定されている方もいらしゃらないため、行っていない。		・今後、他施設へ移られる場合は、想定されるので、準備や事前の情報交換に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉がけ、接遇に関しては、職員間の話し合いや講演会等により、日々の介護を振り返る機会を持っている。個人情報に記載してある記録は、書庫や戸棚に収納してある。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者との会話や、思いを感じとることは、大切なことであると考えているし、本人の思いや希望を汲みとるよう努めている。本人のわかる力に合わせた説明が、十分できているとは思わないが、本人の思いは、大切にしている。</p>	<p>本人の、変化する状態に合わせた対応や説明をできるように、職員間での話し合いや学習を検討したい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日のうちで、食事、おやつ、お茶の時間以外は、一人ひとりのペースに合わせて過ごしてもらっています。入浴も一週間二回を基本に、本人の体調や意向に合わせて、行っています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご家族と一緒に外出され、美容院に行かれる方が1名いる。他の方は、施設に訪問できている理容師さんを利用されている。身だしなみは、気をつけているが、おしゃれとまでは、いっていない。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者さんには、できる範囲で、食事の準備や後かたづけを職員と一緒にやってもらっている。楽しみながら食事をする点での、工夫が足りない。</p>	<p>今後も一人ひとりの状況を見極め、その人その人に合った、本人の負担にならないようなかわりを、継続していきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>他の人と同じでいい、施設で出してもらっているものでいいといわれる。「好きな物を、言ってもらっていいですよ」と説明しても、特にご希望は言われぬ。意識的な支援は、行っていない。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄パターンやオムツ交換のタイミングについては、職員が、その人なりのリズムをつかみ、個々に適した方法を考えて、支援しています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・基本的に週2～3回の予定は、組んでいます。個々人の、その日の体調や状況に応じて、対応しています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・その方の生活パターンに合わせてながら、対応している。本人の意向を聞いたり、その日の体調に配慮して、職員側から、睡眠をお勧めすることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・必要に応じて、カンファレンスやアセスメントにより、その人に適した対応や役割について、話し合いをもって、検討している。食事づくり、縫いもの、清掃、畑仕事など、個々人のできることや興味のあることについて、支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人がお金を持たれている方は、数名である。ほとんどの方は、ご家族からお預かりして、本人の希望に応じて、使えるようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・ご本人の希望に応じて、散歩や買い物、ドライブ等に出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・長時間、外出できる方が少ないため、施設全体での活動は、多くは、持っていない。お花見は、利用者、家族ともに出かけ、楽しい時間を過ごすことができた。今後も外食ツアーや、足湯に出かける計画を立てている。		・利用者の意見を取り入れながら、年間計画に組み入れていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご本人より申し出があれば、その時々状況に合わせて対応している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・訪問された方と、ご本人の自室にて、ゆっくり過ごしていただけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・職員集団として、禁止の対象となる具体的な行為を、たどしく認識しているとは、言えない。身体拘束については、意識して、気をつけている。		・一度、身体拘束の禁止の対象となる、具体的な行為や人権意識を高める、学習の場を設けていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・居室、玄関には、鍵はかけていない。玄関には、チャイムを取りつけている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・居室の様子は、定期的に確認している。特に夜間は、定時の見守りやオムツ交換により、利用者の把握に努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・一人ひとりの状況に合わせて対応している。例えば、ペットから布団にしたり、またその逆にしたり。ポータブルトイレを取り入れたり、撤去したり。夜間イザリのあるかたの部屋には、車椅子を置かない等の対応を行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・一人ひとりの状態については、日々の引き継ぎ時に報告し合っている。その他、職員会議や必要に応じて打ち合わせや連絡を取り合う対応をしている。起こりうる事故を、防止するための知識を学ぶことが不十分である。		・日常起こりうる事故についての防止策や、事故防止するための知識を学ぶ学習会を設けたりしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・救急法については、開所時に講習会を受けた。その後、まだ行っていない。応急手当については、マニュアルや会議にて確認している。		・応急手当や初期対応の訓練は、定期的に行ってきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・災害時における避難体制や訓練は、年2回実施する。そのうちの1回は、地域の方や、消防団と協力し、一緒に行う予定である。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・一人ひとりに起こりうるリスクについて、職員間では、日常的に話し合いや対策を検討している。家族とは、リスク対応について詳細な話し合いは、行っていない。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日、看護師による健康チェックを実施している。異変時には、バイタルチェックを行い、必要に応じて受診している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬については、毎日、確認している。薬の目的や副作用、用法や用量については、理解が十分とは言えない。服薬の支援と症状の変化の確認も、日々実施している。		・職員が、一人ひとりの利用者が、服用されている薬への知識を持てるように学ぶ場を作る。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・食事量や排尿、排便のチェックは、毎日行っている。水分摂取についても、随時確認し、対応している。食べ物についても、季節の新鮮な野菜やバランスのとれた食材に心がけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・食後のうがい、歯磨きは、欠かさず実施している。また、月数回、歯科医による訪問診療や、衛生士による口腔ケアも実施している。		・介護職として、口腔ケアの効果的な方法を学び、身につけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・本人の食事量の把握、水分摂取量の確認は、毎日確認している。個々人により、食事制限があったり、嫌いなもの、食べられないもの、好物等を把握し、献立の内容の一部変更や代替えの物を用意したりして、対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・基本的にマニュアルに従い、対応している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・生モノや野菜等は、なるべく早目に使用するようにしている。他の食材についても、主要なものは、専門業者委託で、定期的に配達してもらっている。長期間使用しない食材は、置かないようにしている。買い物時にはなるべく、最小限の物を買うようにし、余分なものは、買わないよう心がけている。朝晩、調理器具の消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関前には、鉢植えを置いたり、駐車場の周囲の垣根には、季節の花を植えたりしている。道路交差点敷地内に「グループホームえがお」の看板を立ててある。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・清潔感と整理整頓に心がけている。季節感や行事に合った飾り付けにも気配りしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テーブルの席の配置や並びについては、利用者同士の相性や状態により、組み合わせを考え、実施している。共用の空間で独りになれる空間は、ホール南側の非常口あたりであるが、自室でないとなかなか難しい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご自宅で使われていた家具や物品を使用されている方もいる。ご本人の好きなタレントや、家族の写真も自由に貼ってもらっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・毎朝、居室の換気を行っている。その日の天候、気温、湿度などにより、室内の温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内は、バリアフリーになっており、車椅子、押し車、歩行器の方も、自身の能力に応じて、対応可能である。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・何回も同じことを聞かれる方や帰宅要求がある方には、その都度お答えしたり、紙に書いて貼って置いたりして、安心感を持ってもらっている。場所が分からなくなる方にも、張り紙したり、自室であることがわかる、張り紙をしたりしている。		・一人ひとりの状態に応じて、言葉がけや介助方法を工夫していきたい。職員全体で一致した対応ができるようにしたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・建物の外周りは、散歩や歩行練習に利用されている。		・建物の外周りや駐車場まわり、垣根まわり等、工夫して生活感があって、なごめる空間にしていきたい。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・気軽に立ち寄ったり、訪問されるお客様が多いので、今後も地域や家族、本人を取り巻く人たちとのかかわりを大切にしたい。